

1207 R.O (株) アクセルスペース

わたしがこの企業大学訪問に参加した元々の理由は、ただ東大の中に入って直接この目で見れるという貴重な体験ができるから、というだけであった。しかし、それをきっかけにこれからの進路について多くを学ぶ良いきっかけになった。

特に私がこの体験でそれらをもっとも学ばせていただいたのはアクセルスペース様への訪問であったと感じている。

今の日本ではまだほとんど普及していない民間企業による宇宙開発事業に取り組んでおり、企業向けの商用衛星の開発を進めているベンチャー企業。2008年に立ち上げた企業なので、比較的新しく、現在は株式上市で得た資金で会社を起動に乗せることを目的に活動している。

私たちがこの会社を知るきっかけとなったのは2015年1月18日、TBSで放送の「夢の扉+」での特集だ。たった三億円での人工衛星開発が「常識破り」として注目されたためである。その安さの秘密は部品を自社製造している点にある。そう言った点も含めてあらゆる新たな試みをしているところに惹かれ、グループに提案した。

以前より宇宙に惹かれていた私は、このような企業を訪問する貴重な機会を得られてとても嬉しかった。

事務所に着くと、時刻は早すぎないか、質問内容は大丈夫か、など、みな多くの緊張と不安が心を占めていたが、それでも私は何より楽しみでこの訪問にワクワクしていることを自覚していた。

会議室に案内された私達はとても落ち着いているとは言えないほど緊張していたのですが、社員の方の笑顔や雰囲気、気が付くところにも自然な感じで話ができている。少人数で会社を回す分、大規模な会社とは違い、全体を通してのコミュニケーションなどで雰囲気の柔らかい仕事場になっている事があらわれているのだと感じる。社員にとっても作業しやすいのではないかと感じられた。

担当の方との話の中でも特に印象に残ったことをここでは述べたいと思う。

まず一つ、会社の立ち上げについての事だ。さきほど述べたように、まだ日本では全くと言って良いほど普及していない業界に飛び込んだ組織であり、資本金や信頼の獲得にとっても苦労したと仰っていた。投資家やベンチャー企業向けの融資の協力で少しずつ資本金を増やしていましたが、はじめの頃は自分たちの生活の為の支出もあり苦しい時期が続いていたそう。しかし、アメリカで力を持ち始めた民間企業によって活発化した民間宇宙開発業界は認知度や期待も徐々に高まり、今ではウェザーニューズやスカパーJSAT等の大企業とも契約を結ぶほどになったそう。

その陰には、新たな挑戦に対する大きな熱意があったと言う。例えば、商用に開発した衛星を会社に提供するとしても会社で独自の衛星を所有している企業は限られ、従来の利用方法ならばニーズも狭く、顧客がつかない可能性がある。そこで、企業への売り込みをしながら新たな利用価値を考えて、またプレゼンをし…と続けるうちに顧客からの提案も

増えるようになり、使用の幅も広がったそうだ。相手企業に対して熱意を持って話を続けたからこそできた協力だと言う。前例のない新しい事に向き合うのは大変なのだろう、と以前の私は漠然と考えていたけれど、その話を実際に聞くとやはり厳しいものがあるのは確かだが好きだからこそそうして続けられたのだろうとも感じられた。

私は、自分の将来の夢は？と聞かれた時にはっきり言える答えを、少なくとも夏休み前までは持っていた。ですが最近になってより進路を明確にしようと調べたり考えを巡らせてみたりする度に本当に自分のやりたいこと、やりたかったことが見えなくなってきていた。この文章のはじめの方に書いた通り、私は宇宙に惹かれていた。いつかは自分もどこか研究チームの一員として学者になりたい！と小学3年生の子供心に火がついたのがきっかけだった。しかし今は、自分の人生をかけてやりたい事は何ですか、と問われてそれを回答にできるほどの意志はないように感じる。一体自分は何がしたいのか、と考えても他に心当たりも無いのですが、それでも前のように強く思ってるわけでもない。

今思うと中学生の時には既に漠然としてきてしまったようにも思う。自分はこれになるんだ！と確かに考えていた頃、周囲の大人にはそれを宣言していたので自分の両親や中学校の先生もそれを知っていた。そうして少しして自分の将来が漠然としてきた頃、周りの大人は私がそうなりたいのだと思っているので自分はそれに応えるように将来についてのアンケートを書き、作文を書き、話をしていた、そんな様に思える。

そんな私は、社員の方の話を聞いて伝わる熱意がとても輝いて感じられ、同時に羨ましくも思っていた。

そのため、最後に仰っていたお話はとても心に響きました。

質問を終え、最後に担当して下さいました2人から働いている大人としてのアドバイスを頂いた。ざっくりと言うと、自分のやって面白いこと、好きなことを見つける、というものであった。その為に自分の周りにある色々なものに興味を持たなくては、見つかるものも見つからない。目を向けてはじめて気付くこともある、というのははじめの商用衛星の利用方法の模索と似ているところもあるように思う。私に足りなかったのは物事に対する熱意自体ではなく、あらゆる物に熱意を向ける事だったと気付かされた。

私は今回、企業大学訪問に参加して本当に良かったと感じている。元々この企画に参加した理由は違えど、その目的だけでなく企業訪問にも力をいれた事で大きな結果を得られたからである。思えばこれも、あらゆる事に興味を持ち、熱意を向けたという事なのではないだろうか。それで実際に得られたものがあったのだから、この話は間違っていない。私はこれからの人生で多くの経験をするだろう。それらの殆どは他愛も無い事かも知れない。それでもその中から私は自分の好きなことを見つけていくのだろうと考えると、周囲の環境が新鮮に見えてくる。それらひとつひとつと向き合う事を大切に出来たならば、アクセルスペースの方々のように、私もいつかは熱意を注げるやりたい事を見つけられるだろう。これから得られる経験、言葉などを大切にし、自分の人生に熱意を持って向き合えるような生き方をしたい。